

省エネ・エコ住宅の消費者イメージ「パナホーム」が1位



マイボイスコムが実施した調査によると、省エネ・エコ住宅というイメージがあると思う住宅メーカーは、「パナホーム」(11.5%)と答えた人が最も多く、「積水化学工業」「積水ハウス」(約9%)、「旭化成ホームズ」(6.4%)が続いた。「特にない」は6割強にのぼった。インターネット調査で、今回で12回目。調査時期は2018年1月1日～5日。1万1003件の回答を集めた。

知っている住宅メーカーについて聞いたところ、「積水ハウス」「タマホーム」「ミサワホーム」「住友林業」「パナホーム」「積水化学工業」の認知率はいずれも7割だった。地域別にみると、関東で「飯田産業」「三菱地所ホーム」、東北や中部で「一条工務店」、北海道や北陸で「スウェーデンハウス」、中部で「トヨタホーム」の比率が高いことがわかった。

「信頼性・安心感がある」「品質・技術が優れている」と思う住宅メーカーについては、ともに「積水ハウス」「住友林業」「積水化学工業」が上位3位を占める結果となった。ただ、いずれも約半数の人が「特にない」と回答している。

家を建てる際に依頼したい住宅メーカーについては、「積水ハウス」「住友林業」が6～7%、「旭化成ホームズ」「パナホーム」「積水化学工業」が3～5%、「特にない」は59%だった。

情報提供: 新建ハウジング

建築基準法の改正案が閣議決定 用途変更や木材利用が容易に

既存建築ストックの活用や安全性確保、木造建築の推進などに対応した建築基準法の改正案が閣議決定された。改正案には既存建築物の適切な維持管理や改修で建築物の安全性を確保するとともに、空き家などの商業利用、グループホームや保育所などへの転用を進めるための規制の見直しや、建築物の木造化推進のための基準の合理化などが盛り込まれている。

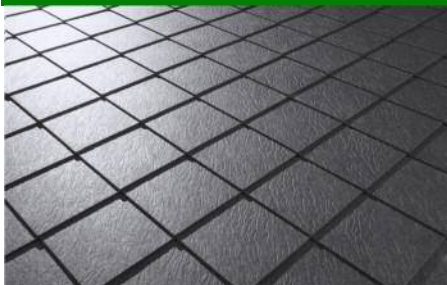
戸建て住宅など小規模な建物(延べ床面積200m²かつ3階以下)を福祉施設などに用途変更する場合には、利用者が迅速に避難できる措置を講ずることで、耐火建築物などにすることを不要とする。用途変更にともなって建築確認が必要となる規模の上限を100m²から200m²に見直す。

木造化の推進では、耐火構造などすべき木造建築物の対象要件を見直し、高さ13m・軒高9m超から高さ16m超・4階以上とする。木材のあらわしなど、木材利用が可能になる基準の見直しも盛り込まれている。

安全性の確保に向けては、既存不適格建築物の所有者などに対する特定行政庁による指導や助言を行う制度を創設するほか、防火地域・準防火地域内において、延焼防止性能の高い建築物の遮蔽率を10%緩和する措置を設けることなどが盛り込まれた。

情報提供: 新建ハウジング

先進のデザイン性で外観美を高める次世代屋根材「グランネクスト」新登場



ケイミーは全社のスローガンである“暮らしをまもる、住まいを魅せる”の実現に向けて、このたびスレート屋根材に新シリーズ「グランネクスト」を発売。

第一弾「ヒシ」は、斜めに交差したラインが、オリジナリティあふれる外観イメージを創出。長き実績で定評のあるカラーベストの軽さや強さを継承しつつ意匠性をプラス。葺き重ねてゆくことで菱形のデザインを作り出します。屋根材としてはもちろん、CB ウォール工法による外壁材として使用することで、住まいの個性がいつ

そう際立ちます。カラーバリエーションは6色。様々な色の組み合わせでデザインの幅が広がり、建物全体をいっそうスタイリッシュに輝かせます。店舗などの非住宅や個性あふれる住宅の屋根や外壁に最適です。

情報提供: ケイミー